ようぼく一斉活動日

たすけ委員会諸井委員より本部巡回頂く

静岡教区報

第646号

発行所

天理教静岡教務支庁
〒425-0013
焼津市岡当目１番地

TEL (054) 626-1333
FAX (054) 628-4615
Email:skyou@live.jp

教区報は、下のQRコードより、スマートフォン等で、ご覧頂けます。

五月三十日本部巡回に於ける

諸井道隆先生お話主旨（要旨）

真柱様が「全教の人が、年祭の意味を知って、歩む、そういう人が増えれば最初からわかってる人だけで勤めるよりも、一手一つの力も大きくなって、それだけ、成人の道を歩ませてもらうことが、成人の道を進ませていただくことができるのだ」と、そのようなことを年頭にお話し下さったことはご存知だと思います。年祭活動の歩みとして、全教のようぼくに年祭活動の意味をまず知って頂いて、そして共に歩んでもらえる人が増えていくということを、今、取り組んでる所であります。そのために、全教会一斉巡教が行われましたが、一斉巡教に立ち会うことのできなかったようぼくの方々に、教会の会長さん、あるいは、教会側から進んで声をかけて、年祭の意味というものをお伝えしていくことが、大事な丹精の取り組みではないかと思ってます。

もう一点、一斉巡教を通して、年祭の意義、教会の目標、心定めを知って頂き、既に三年千日の歩みを進めて頂いている方々に、地域の繋がり、その力で、年祭活動の歩みを、その成人の歩みを進めて頂けるようにとお考え頂いたのがこの「ようぼく一斉活動日」ではないかと思います。

論達を拝読させて頂きますと、その要点が二つ挙げられております。一つは、論達の中に「ようぼく一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高め、仕切って成人の歩みを進める」と書かれてます。つまり今回の年祭は、ようぼく一人ひとりが、教祖の道具衆としての自覚を持つということが大事で、そして、自覚を持って、今度は仕切ってその三年千日の間に、成人の道を一歩でも二歩でも進めるという、これが今回の年祭の目指すところであります。もう一点。これは論達の中に、「教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に押し進める時である」という部分です。これが二つ目の大事な所だと思います。つまり一人ひとりがこの三年千日の間に、ひながたを目標に教えを実践していく。教えを実践するということは、たすけ一条の歩みを進めるということでありますから、それを活発に進めさせて頂いて、通り切らせて頂く、これが二つ目のポイントだと思います。何か大きな物事を全教の力を結集して成し遂げるというのが今回の年祭活動ではないんです。いかにようぼくそれぞれが論達にお示し頂く、「成人」、ができるようになっているかということが非常に大事だということを、まずはお互い、理解をさせて頂きたいと思うんです。今、ようぼくの方々は、教会の目標や心定め、そして、個人の心定めに邁進して下さってると思います。しかし、最初に考えたことを忘れてしまったり、違う方向に関心が移ってしまったり、あるいは、挫折をすることもあるでしょう。ですけれども、三年千日通ることが大事でありますから、途中でねじを巻くということが必要になってくると思います。その有力な手段の一つとして地域の繋がりを通して、新たな気づきをお互いに気付かせて頂く、勇みを沸き立たせて頂く、そういう機会を地域の集まりで作っていこうというのが、今回の「ようぼく一斉活動日」の取り組みであると思います。

そして、もう一つは、これは定期的に行うことで、三年千日をなんとかしっかりと通れるようにしようというもので、今年の十月二十九日の第一回目としまして、二年の間に、四回、都合五回、この日を設けて参加することで、年祭活動のエネルギーをチャージして頂きたいと、私は理解をしております。

この後、諸井先生より「開催要項」に沿って順次概要が説明され、質疑応答のち、各支部ごとに企画の話し合いがなされた。

教区全体会議を開催　～令和四年度決算を可決～

五月三十日、教務支庁にて全体会議が開催された。今回はコロナ禍が二類から五類に緩和されたこと、また教祖百四十年祭へ向かう地域活動の取り組みとしての「ようぼく一斉活動日」のために本部巡回をいただく上から、本来の形に復し、各部各会の責任者、支部長、地方委員を対象に全体会議が芹澤常太郎教区長室長司会のもと進められた。

親神様、教祖、祖霊様礼拝に続いて挨拶に立たれた鈴木道輝教区長は、冒頭、「一月より始まった教祖年祭へ向かう三年千日の仕切りの道もこの五月を迎え、全教会一斉巡教がひと区切りとなり、いよいよ日々のひながたを目標とした教えの実践、そしてたすけ一条の歩みを活発に前へ進めさせていただく動き、年祭活動の動きを本格化させていく時へ差し掛かった今」と前置きされ、全教会一斉巡教の巡教員をつとめた、日々にをいがけにコツコツと歩む教会長が、巡教の理づくりとして個別訪問をつとめる中、巡教先の教会の所属の青年と出会う。巡教日に再開した青年はにをいがけを熱心につとめるその教会長の姿に感動し、次回一緒ににをいがけをしてみたいと約束してくれた話、続いてあるようぼくが、初めて人を誘っておぢばがえりしたが、その方は四十年前、山の辺の道を歩いたことがあり、その時天理教本部の神殿に参拝したいと思ったが、案内してくれる人がいなかったので、あえなく遠くから見学していたが、今回の機会に、神殿で参拝をさせてもらい、殿内の神聖な空気に感動。ぜひ次もおぢばへ帰りたい、との話で、共に教祖がお働きあってこその喜びの話を聞かせて頂いたことを紹介。「年祭活動が始まり、教祖は全国各地で大活躍中であるので、私たちも、その親の働きに遅れることがないよう、しっかり務めさせていただかなければならないと思う」と述べた。

続いて教区長を議長として予算審議が進められた。まず会計室長の永井磨主事より令和４年度決算の発表、鈴木理一主事より災害準備金決算の説明、郷内一衛主事より管理積立金決算の説明の後、質疑応答と採決が行われ、地方委員の全会一致で可決された。

この後各部会連絡。その後、親神様、教祖、祖霊様を礼拝して閉会した。

「ようぼく一斉活動日」本部巡回

全体会議終了後、昼休憩を挟んで午後1時より、年祭へ向かう地域活動の核となる「ようぼく一斉活動日」について、本部巡回がたすけ委員諸井道隆先生をお迎えしてつとめられ、教区では全体会議に出席した主事、実行委員会、また各支部からは活動日の企画運営に携わるスタッフ合わせて約１００名が参加した。巡回に先立ち、鈴木教区長より、「この度の『ようぼく一斉活動日』は、それぞれのようぼくが日々の教えの実践、生活に根差した教えの実践を進めていく上で、その生活の場となる地域で、そうした機会を数多く持つため、そして年祭活動を、一手一つに進めようというのが、主眼として開催されるものであります。これはこれまでの年祭活動の中ではなかった新たな試みであり、それぞれの地域で、どのように進めたらいいのか、どんな準備をしたらいいのか、いろいろ思案、戸惑いというものもあるかと思いますが、今日、おぢばから先生をお迎えして、これから巡回をお受けさせていただきます。それをしっかりと心に置いて、一手一つに、静岡教区として取り組ませていただきたく存じます。お集まりの皆様方は、各支部にあっての核となる方々ばかりであります。どうか、お力添えのほど、よろしくお願いいたします。また、本日は、最後までお付き合いくださいますよう、よろしくお願い申し上げます」との挨拶の後、諸井先生より巡回（一面参照）をいただき、質疑応答ののち、各支部ごとに教区実行委員メンバーが入ってねりあいがなされ、支部長を中心に開催場所の選定や自主プログラムの内容の検討などの話し合いが熱心になされた。

第六十回歌う一手一つ

六月四日、第六十回歌う一手一つ（主催天理音楽研究会）が行われ、教区おうた合唱団が出演した。

コロナ禍の影響で四年ぶりの開催となった同行事も、五月にコロナウイルス感染症に対する国の対応が二類から五類に移行したことを鑑み、開催となったが、全体としていつもの半分余りの出演数となった。

静岡教区では早くから団としての活動を再開して取り組んでおり、東部、中部、西部ともそれぞれ定期的に練習に取り組み、昨年、今年も教務支庁での合同練習を開催。研鑽を積んできた。

前日、県内を始め全国的な豪雨の中、おぢばがえりを果たし、おぢば参拝の後、愛静詰所に宿泊しつつ練習に励んだ。

当日も詰所、会場となった天理市民会館でリハーサルを行い、本番に臨んだ。鎌田恵美子指揮、小野裕子伴奏のもと、「夜の歌」（阪田寛夫作詞、佐々木伸尚作曲）「ああやまと」（福原光江作詞、林雄一郎作曲）、「おうた十番・よふきづくめに」（松田元雄作曲）を熱唱した。久し振りの出演に合唱団一同、感激のステージとなり、次回の出演に向けて気持ちを新たにした。

他に浜松おうた合唱団アヴァンティも出演。「あすという日が」（山本瓔子作詞、八木澤教司作曲）「時の旅人」（深田じゅんこ作詞、橋本祥路作曲）が歌われた。

新任・教会長に就任して

中駿東支部
岐美大教会部属
巴上分教会四代会長
武田　清典

皆さんこんにちは。この度巴上分教会四代会長に就任させていただきました、武田清典です。立教百八十六年三月二十六日、御存命の教祖の御前で巴上分教会四代会長の理のお許しを戴き、親神様、教祖の大いなるお導きにより、また来賓の先生方をはじめ多くの信者様、教友のお力添えをいただきまして立教百八十六年五月十四日に巴上分教会四代会長就任奉告祭を勤めさせていただくことができました。

巴上分教会は大正のはじめに武田正吉の妻はるとと長女ふさの疫痢病から、おたすけをいただきこの道にお引き寄せいただきました。そこから正吉の長男、清作は大正十四年四月二十日巴上宣教所設立のお許しを頂き、二代会長武田仁、三代会長武田正彦へと受け継がれてまいりました。

教祖百四十年祭の年祭活動の一年目に教会長の理のお許しを頂けましたことは誠に有り難いことであり、この日を迎えることができましたのは、諭達に「先人はひながたを心の頼りとして懸命に通り、私たちへとつないで下さった。」とありますように、正にそのお陰であると思わずにはいられません。私自身も一生懸命教会のひながたを心の頼りとして懸命に通らせていただき、次の代へとつないでいきたいと思います。まずは教会長として教祖百四十年祭の年祭活動を精一杯通らせていただきます。そして巴上分教会を更に明るく温かく陽気でより身近な教会に築きあげていきたいと思います。これからも宜しくお願い致します。

道の教職員　第四十四回総会開催

六月十一日、道の教職員（田中裕一委員長）が第四十四回総会を教務支庁で開催した。

永井磨担当主事を迎え、神殿でおつとめをつとめた後、総会式典を行い、続いて永井主事による教話、昼食をはさみ、最近いじめ対策でも導入されているピアサポートの活動について田中委員長より紹介があった。

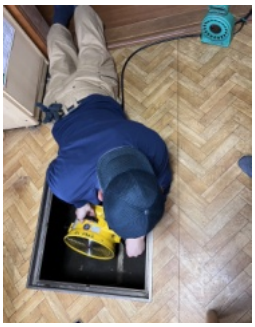
東海ブロック訓練が岐阜教区にて実施
静岡教区隊十四名勇んで実動

災害救援ひのきしん隊（＝災救隊）東海ブロックは五月二十七日から二十九日にかけて、岐阜県加茂郡七宗町中麻生の「小萱城（こかやじょう）跡公園」の多目的広場で訓練を実施、本部隊ほか、愛知、岐阜、静岡の各教区隊（延べ百八十六人）が参加、静岡教区隊からは山口志朗隊長以下各支部隊長など十四名が代表して参加した。作業内容としては、公園内の松などの雑木八十六本をチェーンソーで伐採し、細かく切り分けて運搬したほか、公園内約一万㎡にわたり下草を刈払機を使って除草作業を行った。隊期中は岐阜教務支庁の駐車場内にテント五張りを張って野営するなど即時対応を想定した充実した訓練が行われた。

豪雨災害被災地へ出動

六月二日から三日にかけて台風二号による影響で、入梅の時期と重なり日本各地に線状降水帯が発生、国内各地に豪雨被害をもたらした。静岡県内でも昨年の豪雨災害で被災した磐田市豊岡敷地川が再び決壊し、同地区は浸水被害を受けた。災救隊は昨年出動した経緯から出動の要請を受け西部ブロックを中心に六月六日より七日まで一次隊として延べ二十三名が出動し、作業内容として側溝泥上げ二件、災害ゴミ搬出運搬一件のひのきしんを行った。続く十日にも一般ボランティア二十名と共に、被災宅敷地内の泥搬出、災害ゴミ搬出、運搬流木片付け、土嚢づくり、床下掃除、ボランティアセンターの片付けに当たった。

また駿豆支部隊が十二日、十三日で延べ十三名が沼津市原地区被災地で実動、二軒の床下浸水家屋の水除去のひのきしんに当たった。



東駿支部婦人会総会

東駿支部婦人会総会（池田和代主任）は五月三十日興津分教会で、第四十五回総会を開催。四十名が参加した。

当日は、坐りづとめ、よろづよ八首をつとめ続く式典では支部主任が、今一後度教祖のひながたを学び、いつも心に教祖の温かさを感じとり、会員としてこの教えを身近な人々に伝え、共に心の成人を目指す丹精させて頂けるようと挨拶され、天理大ラグビー部、小松監督による「ラグビーを通しての人材育成」のDVDを鑑賞し、参加者は心新たに年祭活動の歩みを進めることを誓い合った。